

個別リスク検診研究
ニュースレター

「アイリスレター」は、個別リスクの内視鏡検診研究にご協力いただいた方にお送りしているニュースレターです。

アイリス レター Vol.3

見出し

* 研究協力者リクルート進捗状況1
* 胃がんは増えているか？2
* 内視鏡検査の歴史3
* お知らせ4

発行日 平成 30 年 2 月 28 日
発行元 AMED 胃内視鏡検診
研究事務局
URL <http://www.j-sasg.jp/>

研究協力者リクルート進捗状況

平成 29 年 4 月から始まった AMED 研究には、新潟市をはじめ、鳥取県鳥取市、米子市、秋田県由利本荘市の 4 市がエントリーしました。新潟市や鳥取県は全国先駆け胃内視鏡検診を導入し、その効果を科学的に証明した研究成果を出した地域です。

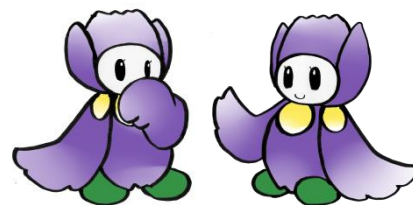
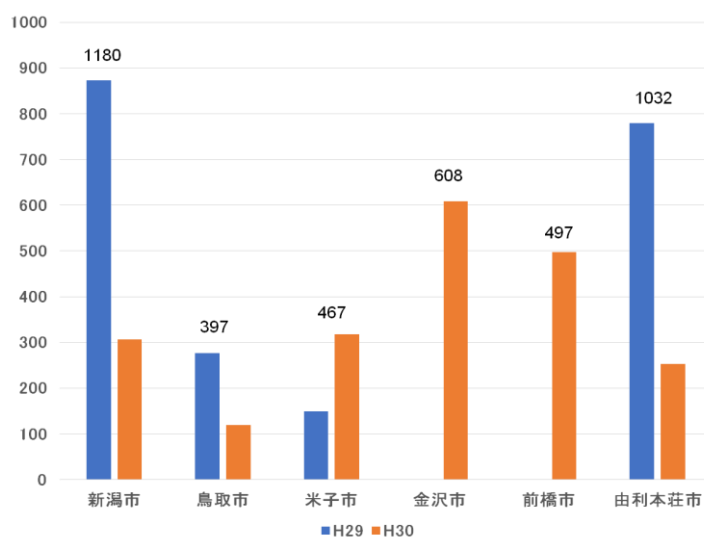
平成 30 年度は、金沢市、前橋市が加わりました。これらの地域も医師会が中心になり、早くから胃内視鏡検診を導入した地域です。精度の高い検診を提供しているということで高い評価を得ています。

2 年間で 4,113 人の方に研究に協力して頂きました。昨年リクルートの多かった新潟市や由利本荘市は、今年は減少していますが、米子市は昨年よりも 2 倍以上に増加しています。

研究協力者の総数の最終予定数は 15,000 人であることから、平成 31 年度も引き続き、研究協力者のリクルートを行なっていきます。

本研究は、日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」（課題番号：18ck0106234）研究班（研究代表者 深尾彰）の一部として行っています。

図 研究協力者リクルート進捗状況



胃がんは増えているか？

日本は、世界的にみても胃がんの多い国といわれています。このため、胃がん検診は日本から始まりました。また、胃がんの診断や治療についての研究技術開発も進んでいます。しかし、最近では、肺がんや大腸がんの増加も聞かれます。では、最新の統計から、胃がんの情報を見てみましょう。

がんによる死亡の情報は、死亡届をもとに作成される人口動態統計からえることができます。一方、どのくらいの人のがんになったか（がん罹患）を調べる方法は、がん登録があります。がん登録は、2016年に法律ができたことにより、全国で情報収集が行われています。しかし、それまで一部の地域のデータをもと、日本全体のがん罹患が推測されてきました。

最近20年間、胃がんになる人は男女ともに徐々に減少しています。しかし、がん死亡の中で、胃がんによる死亡は、男性では第2位、女性では第4位です。現在でも胃がんでなくなる人は4万5千人を超えています。ただし、胃がんになる人は以前より高齢化しており、胃がんが増えてくるのは男女ともに60歳を超えてからです。60代前半で定年退職を迎えると、職場でがん検診を受けた時のように自動的に機会が与えられるわけではありません。しかし、胃がんが増えてくるのは定年後の60歳からです。全国の市町村で胃がん検診が提供されていますから、その機会を上手に活用しましょう。

図1 胃がん罹患率の推移

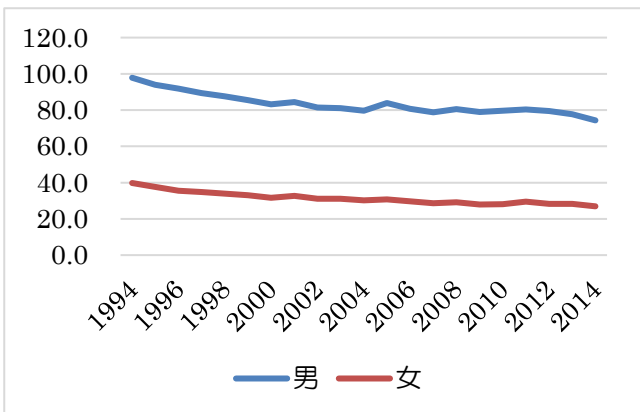


図2 がんによる死亡（男性）2017

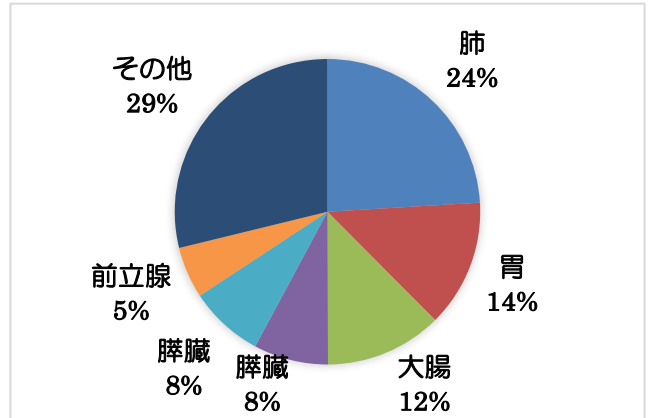


図3 がんによる死亡（女性）2017

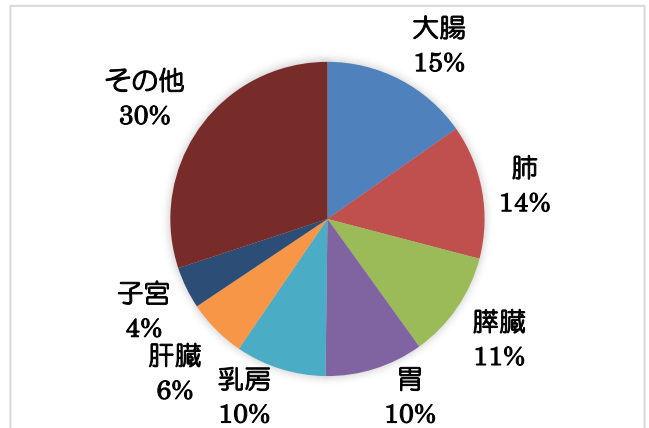
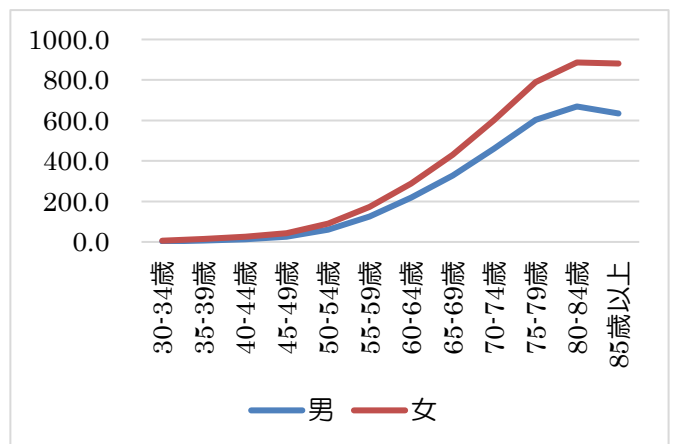


図4 胃がん罹患率の年齢別比較



参考資料
 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/index.html



内視鏡検査の歴史

胃内視鏡検査は、研究協力を頂いている方々には馴染み深い検査ですが、この医療機械はどこで開発されたものか、ご存知ですか。

内視鏡の起源は古く、ギリシャ・ローマの時代にさかのぼります。しかし、現在、私たちが検査を受けている胃内視鏡は戦後、日本で開発されました。世界初の胃カメラが登場したのは1950年、東京大学の宇部達郎博士が現在のオリンパスと共同で開発しました。開発当初の胃カメラは身体の中を直接見ることはできませんでした。医師が胃カメラで撮影した写真を診断するという方法でした。胃カメラ開発については、吉村昭氏が「光る壁画」という小説を書いています。

1952年に胃カメラは市販されましたが、当初は故障も多くありました。しかし、その後の技術開発により、胃カメラは安全で診断に効果的な方法ということから普及していきました。写真は1961年に販売された胃カメラです（写真1）。

さらに1960年代に米国で開発されたグラスファイバーが内視鏡にも応用されました。これにより、胃の中を直接観察できるようになりました。ファイバースコープの開発により、内視鏡は一段と使いやすくなり、診断精度も上がってきました。

皆さんも胃内視鏡検査を受けた時に、検査胃がモニターを見ながら検査をしていることに気づかれたと思います（写真2）。ファイバースコープにより内視鏡の電子技術はさらに発展し、電子スコープが登場しました。画像処理技術が進み、電子スコープでは、リアルでより鮮明な画像が得られるようになり、小さな胃がんも発見しやすくなりました。

胃内視鏡検診は、まさに日本の技術が生み出した世界に誇るべきがん検診です。この新しい検診

を多くの人々に受けて頂き、胃がん死亡を減らしていくことが、今回の研究の目標でもあります。

参考資料

鷲塚信彦. 内視鏡歴史と内視鏡技術の変化. 繊維と工業. 64: 14-17. 2008.

吉村昭. 光る壁画. 新潮文庫

オリンパス. 内視鏡ミュージアム.

<https://www.olympus.co.jp/technology/museum/endo/>

写真1：市販当初の胃カメラ （宮城県対がん協会提供）



お知らせ

ホームページをリニューアルしました！

本研究班のホームページがリニューアルしました (<http://j-sasg.jp/>)。本研究はX線検診と内視鏡検診の2つの検査について研究しています。各検診に該当する地域のオリジナルのページを作成しました。また、研究の説明についてのDVDもご覧になれます。さらに、研究や検診に関するQ&AやアイリスレターPDF版も公開しています。

皆様にご参加いただいている研究は、日本全国で特に胃内視鏡検診に熱心取り組んでいる地域が選ばれています。今後は、各地域の情報（研究説明会や講演会など）をタイムリーにお伝えします。

これからも、研究協力者のリクルート状況や研究成果など順次公開していく予定です。また、皆様のご要望に対応していくためにも、掲載してほしい情報などがありましたら、ぜひお知らせください。

胃がんは早期発見が重要！
検査は大事だけど受けるのは大変。
検査の回数減らせられないかな？

未来の胃がん検診のために、
ご協力をよろしくお願いします。

新着情報

- 2019.01.30 新潟市 平成31年(2019年)4月から新潟市の胃内視鏡検診の体制が変わります。
- 2019.01.30 鳥取市 平成30年度夏の研究説明会は、1~3月中に3回開催されます。
- 2019.01.30 米子市 平成30年度夏の研究説明会は、1~3月中に3回開催されます。
- 2019.01.30 金沢市 平成30年度は608人の方々に参加いただき、リクルートを終了しました。
- 2019.01.29 山形県 平成30年度胃X線研究検診 山形県にて、1,123名の研究参加ご協力をいただきました。
- 2018.10.18 宮城県 平成30年度胃X線研究検診 東原市・登米市にて、479名の研究参加ご協力をいただきました。
- 2018.12.21 共通 ウェブサイトをリニューアルしました。

「J-SASG/リスク別の胃がん検診研究」とは

ピロリ菌感染や胃粘膜の変化などを調べることで

- 01 胃がんになるリスクの高いグループと低いグループを分ける方法を調べ
- 02 それぞれに適した胃がん検診のサイクルを検討します。

それにより、胃がんになるリスクの低い人は現在の検診間隔を延長し、検診の回数を減らすことが可能になります。

研究協力者勧誘のお願い

研究協力者に該当の方がお近くにいらしたら、ぜひお声がけください。参加条件は以下の通りです。

【研究協力者の条件】

- ① 対象地域で胃内視鏡検診を受診した方
- ② 50-69歳の方（ただし、新潟市は受診年度偶数年齢の方）
- ③ 重篤な病気にかかっていない方（入院治療などをしていない方）
- ④ 現在、がんで治療を受けていない方
- ⑤ 胃切除の手術を受けていない方（内視鏡による切除は除く）
- ⑥ これまで行ってきた胃内視鏡検診に関する研究に参加していない方（新潟市、由利本荘市）



キャラクター「アイリスちゃん」紹介

アイリス（あやめ）の花言葉は「よい便り」「メッセージ」です。
「アイリスちゃん」は、研究協力をお願いしている方々に、健康に役立つ情報をお届けします。